

チェック項目		改善目標・工夫している点（抜粋・要約）
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	待合の空間は少し狭いため、他の部屋を利用してトラブルを減らしている。狭く感じることもある。
	2 職員の配置数は適切であるか	職員配置は基準上適切であるが、もう少し余裕が欲しい時もある。個別支援が必要な利用者が多い日は難しい点が多い。送迎に出ると少なく感じる時もある。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	階段が少し高いため、上り下りに介助している。トイレのバリアフリーを希望。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	週に1回のミーティングを行い、方向性を確認することができている。もう少し目標を明確に定めなければいけない。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	早急に改善できることに関しては対応している。保護者のニーズに合わせ良い支援が提供できるように設備を揃えている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	ホームページのトップ画面にて公表している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	現在、第三者評価は行っていないが今後行うことを予定している。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	組織を固めるために中間管理職の研修が必要。他の事業所でとったアセスメントが共有されていないのではないかと。なるべく多くの研修に全員が参加できるようにシフトの組み方を考える。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	アセスメントのマニュアル化が必要と感じる。サーバント内で統一チェックリスト。個性を共有し、プログラムの作成を行う。
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	S.M社会生活能力検査を実施している。標準化されたアセスメントツール（ヴァインランド）は勉強中。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	管理者、児童発達支援管理責任者の意見ではなく、関わる職員全ての意見を取り入れている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	活動プログラムは固定化しないよう、毎日違う内容を行っている。その中でも個別の対応（ルーティン）も取り入れている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	細かく設定できていないが、利用者の手持無沙汰を軽減するように工夫はしている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	状況に応じて個別支援計画の作成を行っている。集団が苦手な利用者に対しては無理強いすることのない計画を作成し、個々に対応するようにしている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	毎日、朝礼を行っている。朝礼の際にその日の利用者の確認を行い、どのような動きをしなくてはならないか、リスクマネジメントを共有している。
16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	終了後に打ち合わせとして集まることは少ないが、あったことを伝え合うことはできている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	記録は毎日つけている。特にけが、発熱、事故に関しては細かく記録を行い時系列にしてまとめている。支援記録も、「〇〇をした」だけではなく、その挿絵も捉えるようにしている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	少なくとも半年に一回はモニタリングを行っている。課題の変更があればその都度モニタリングを行い個別支援計画に反映させている。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	ガイドラインの基本姿勢に基づき、利用者一人ひとりに合わせた活動プログラムを立案して支援を行っている。
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	担当者会議が行われるケースは少なく感じる。会議が行われることを待つだけでなく、こちらからも積極的に会議を行うように日頃から連携をとるようにしていく。

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	・互いに可能な範囲で連絡調整をし、情報共有も必ず行っている。 ・送迎時のみにはしか先生との会話がないう。学校へ出向き、話し合いの場を作っていくなければならない。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	医療的ケアが必要な利用者がみえる場合は連絡を行う。但し、専門の職員（看護師）が在籍していない場合においては、安全に配慮しやむを得ず利用をお断りさせていただいている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	保育所、養訓センター等に訪問し、情報交換を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	情報の共有を行っている。電話連絡、直接お会いしてお伝えすることもある。移行先へ同行して様子をお伝えすることもある。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	現在は不十分であるが、情報の共有を行うことで解決できる課題もあるので今後の職員としての課題とする。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	交流を行う機会は少ない。インクルーシブは必要と感じるが、サービス提供時間に児童館へ全員が行こうとすると下校時間の兼ね合いもあり難しい点がある。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	行政から連絡が入る場合は研修、意見交換会に参加している。（地域の放課後等デイサービス事業が集まり会議を行う）
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	保護者との連携は送迎時、また、事業所内相談支援を行いお話をする時間を多く設定している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	ペアトレを行うことが望ましいが至っていない。できている家庭とそうでない家庭がある。（ペアレントトレーニングは今後行う予定）
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	必ず保護者保管用、事業所保管用を用意し、契約者の目の前で重要事項及び契約書、利用者負担をお伝えしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	相談に関しては適切に助言を行っている。事業所で抱えきれない相談に関しては各関係機関と連携を行い解決に至っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	保護者を集めてお話しする機会は設けている。保護者同士の連携については秋の遠足や行事の際に顔を合わせて交流することがある。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	苦情を伺った際は適切かつ速やかに対応を行っている。また、伺った苦情は書式に残し、解決策を考え保護者に提示しご説明させていただいている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	会報にて行事予定をお伝えしている。SNSを通じて緊急時の連絡、行事の連絡を行っている。
	35	個人情報に十分注意しているか	個人情報の管理は各事業所の管理者が責任者となり、鍵付き書庫にて厳重に保管している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	必要である場合は契約時に記入する場所を明確にするため、付箋を貼る等の配慮を行っている。言語に関しては行政に依頼し、通訳の方を派遣していただくこともある。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	地域のゴミ拾いを行っている。毎年行っている夏祭りでは地域住民の参加も受け入れている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	作成はしてあるが、職員保護者に周知が足りていない。誰でも見える場所に置いてあるが、見るような工夫をしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	定期的に避難訓練、消防訓練を行っている。防火対象物に関しては年2回の消防訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	顧問の司法書士による虐待防止研修（基礎・実践）を職員全てが受講している。県が行う研修にも毎年参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	会社の方針で身体拘束は行っていないため該当なし。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	医師の指示書に基づくものもあればないものもある。アレルギーに関してはアセスメントにて聞き取りをして対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	ヒヤリハットは各事業所で行っている。大きな事例に関しては全事業所で共有し、改善に対して必要な事項をまとめる。

虹の橋・虹色キラリ・虹色スケッチ・虹色SKY・虹色DAYS・虹の郷・サーバントホース

51名

チェック項目		実数				割合			
		はい	どちらともいえない	いいえ	合計	■はい	■どちらともいえない	■いいえ	
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	33	17	1	51	65%	33%	2%
	2	職員の配置数は適切であるか	22	25	2	49	45%	51%	4%
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	27	14	7	48	56%	29%	15%
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	27	22	2	51	53%	43%	4%
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	17	23	5	45	38%	51%	11%
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	9	12	19	40	23%	30%	48%
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	10	17	15	42	24%	40%	36%
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	46	3	0	49	94%	6%	0%
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	35	11	1	47	74%	23%	2%
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	18	24	5	47	38%	51%	11%
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	36	12	2	50	72%	24%	4%
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	42	5	3	50	84%	10%	6%
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	34	12	3	49	69%	24%	6%
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	36	11	1	48	75%	23%	2%
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	43	8	0	51	84%	16%	0%
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	25	20	5	50	50%	40%	10%
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	39	10	1	50	78%	20%	2%
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	37	11	1	49	76%	22%	2%
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	24	21	2	47	51%	45%	4%
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	33	10	1	44	75%	23%	2%

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	30	16	3	49	61%	33%	6%
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	13	14	12	39	33%	36%	31%
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	13	19	11	43	30%	44%	26%
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	11	17	12	40	28%	43%	30%
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	23	12	9	44	52%	27%	20%
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	11	15	21	47	23%	32%	45%
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	11	12	19	42	26%	29%	45%
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	37	12	0	49	76%	24%	0%
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	14	14	18	46	30%	30%	39%
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	36	10	1	47	77%	21%	2%
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	32	14	1	47	68%	30%	2%
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	13	11	22	46	28%	24%	48%
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	38	8	2	48	79%	17%	4%
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	37	6	4	47	79%	13%	9%
	35	個人情報に十分注意しているか	52	0	0	52	100%	0%	0%
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	36	14	0	50	72%	28%	0%
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	27	14	5	46	59%	30%	11%
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	36	10	3	49	73%	20%	6%
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	40	6	4	50	80%	12%	8%
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	44	5	0	49	90%	10%	0%
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	23	13	8	44	52%	30%	18%
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	20	17	7	44	45%	39%	16%
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	46	4	1	51	90%	8%	2%

